



菅名岳や大蔵山からの清流が、カツラ、トキノキ、サワグルミなどの巨木を育みながら流れ下る。

OB会員 武藤 常男

源清流清

ときわ会
五泉支部

令和4年7月11日

第7号

ときわ会東蒲・五泉支部
広報委員会



「点と線」の強化を

支部長 山崎 浩志
(62年度)

新型コロナウイルス感染防止対策を講じた教育活動は、長期戦の様相を呈してきている。「新しい生活様式」が「当たり前の生活様式」となりつつある。

令和四年度も、まだまだ我慢を強いられる状況は続きそうである。

また、予測困難な時代を迎え、学校では、「令和の日本型学校教育」を進めながら、働き方改革をはじめとした多くの課題の解決が求められている。教員志願者の減少という危機にも直面している。

難局を乗り越えていくには、全ての会員が「ときわ人」としての責任と自覚をもち、支部活動の充実・発展を図ることに尽きる。

そこで、今年度も、支部活動のスローガンとして『あ』こがれ、『つ』ながり、そして『み』らいへ」を掲げることとした。支部の「あ・つ・み」(活動の厚み・絆の厚み・人材の厚み)を広げることとは、縦糸としての支部組織の強化であり、「線」の強化である。

しかし、支部活動に制約が課せられる中であって、支部組織の母体となる会員個々の資質・能力の強化も欠かせない。「点」の強化である。

そこで、今年度は、会員個々の5つの「せん」(「5せん」)を磨くことを加えた。

「5せん」とは、①自分の強みを発揮する「専門性」、②教育のこれからの方向を見通す「先見性」、③磨き抜いた指導技術を身に付ける「洗練さ」、④児童生徒や同僚あるいはときわ会に対して鋭い感性・感度を働かせる「センシビリティ」、⑤立ち居振る舞いや気遣い等の人間性の発露となる「センス」である。

会員個々が「点」として光り輝くことで、憧れを生み、つながりを深め、教育の未来を担う人材へと育つ。そのことが、盤石な「線」としての支部組織の具現となる好循環をもたらす。「点と線」の強化により難局を乗り越えていきたい。

令和四年度スタート！ ときわ会東蒲・五泉支部の取組

● 研修委員会 ●

新しい時代の

授業力を身に付ける研修を



五泉南小学校
石田 雄介
(60年度)

「憧れられる授業力を身に付けよう」を活動方針の中核とし、新しい時代の教育に対応する実践的な指導力を高める研修の充実を図って参りましょう。

そのために、次の三つを重点とした取組を推進します。

(1) 「主体的・対話的で深い学び」を求め、日々の授業の手がかりや情報共有の場となるグループ研修の充実

(2) 会員一人一人の授業実践の成果や課題が分かり、明日の授業に活用される研究集録の発行

(3) 支部や年度、本部事業との連携を図る多様な研修への参加・推進
私たち東蒲・五泉支部会員が、学校現場で《あ・つ・み》の「あ」憧れ」の存在となる力を、研修を通して身に付けることが大切です。対面の良さ、リモートの良さを生かして、効果的な研修を行っていくことが、

その第一歩となります。日々の授業こそ研究的に行い、実践を積むことで力を付けていきましょう。

● 組織委員会 ●

支部の「縦糸」
年度・年層等の「横糸」



五泉東小学校
藤崎 善之
(63年度)

ウイルス禍の今こそ、会員相互の「つながり」を本委員会は大切にします。支部の「縦糸」と年度・年層等の「横糸」を紡ぎ、交流の促進、情報共有を図ります。

○会員相互の交流と親睦

○自立会員激励会、女性会員の集い、年度代表者会等の事業を通じて、交流と親睦を深めます。

○入会促進の取組

【目標：支部五名以上】
昨年度は八名の入会がありました。今年度もこれという方へのお声掛けをお願いします。



● 広報委員会 ●

広報委員会の

果たすべき役割



愛宕小学校
高津 清一
(60年度)

広報誌「源清流清」の四年目の発行となります。今年度も東蒲原地区と五泉地区に勤務する会員同士の顔が分かり、それぞれの地区在住のOB会員の皆様ともつながる広報誌を目指していきます。

昨年度に引き続き、本部ホームページ「支部情報ボックス」を、積極的に活用します。支部の「あつみ」のある取組の様子を、全員の会員に向けて発信します。

今年度も引き続き、学校同士、会員同士の実践交流と、心の交流がいきなり形で見られるよう、委員一同尽力していく所存です。

● アクション委員会 ●

「信頼」を得るための活動



阿賀津川中学校
稲生 一徳
(3年度)

地域貢献活動は、社会的責任とも言われ、教育研修団体の「ときわ会」が地域社会から「信頼」を得るため

の活動です。
今年度も新型コロナウィルス禍により地域のイベントの一部に中止がありますが、感染対策を講じて実施します。

- ① 支部から紹介するイベント等にボランティアとして参加
- ② 理科センター主催の「夏休みわくわく科学体験」に協力

「ときわ会」の本旨に立ち返り、アクション委員会の活動を理解し実践することを切に願っています。

● 地域とともに人づくり推進委員会 ●

地域とともにある

学校づくりの実現



大蒲原小学校
佐藤 智昭
(元年度)

私たちの委員会は、支部方針達成のための具体的取組として、「地域と連携した学校づくりへの知見の集積（実効性あるコミュニケーション・スクールの推進）」を掲げています。

当支部の小中学校ではコミュニケーション・スクール二年目となり、各学校で創意工夫して取組を進めています。

今年度は、さらに地域とともにある学校づくりを目指して、先進的な実践に取り組んでいる学校から学ぶ機会をつくりたいと考えています。